

コウノトリの生息をめぐる自治体連携に向けた
福井県内での環境政策・環境教育に関する施策の取り組み状況の
把握ー県内の16市町を対象にしたアンケート調査からー

本田裕子

人間環境学科 准教授
専門分野：環境社会学、野生生物保護

キーワード：コウノトリ、野生復帰、福井県、自治体連携、越前市

1. 本研究の背景と目的

コウノトリ (*Ciconia boyciana*) は世界的にも絶滅危惧種であり、その保護政策および保護活動は国際的な課題である。日本国内のコウノトリの個体群は 1971 年に野生下で絶滅したが、最後の生息地であった兵庫豊岡市で 1965 年から取り組まれていた人工飼育は、野生下絶滅以降も継続され、1989 年に旧ソ連から譲り受けたコウノトリから繁殖に成功、その後順調に飼育数を増やし、2005 年に豊岡市で 5 羽が放鳥され、野生復帰の取り組みが開始された。

2020 年 12 月 31 日現在、兵庫県立コウノトリの郷公園が確認する野外での生息数は 220 羽となり、日本各地に飛来・定着し、徳島県鳴門市や島根県雲南市をはじめ野外繁殖に成功している自治体も複数となっている。

福井県越前市は野生下絶滅当時、ほぼ最後までコウノトリが生息していた地域であり、2010 年からコウノトリが継続して飛来している。また、越前市は 2009 年に「越前市食と農の創造条例」を制定し、環境調和型農業を推進しており、2010 年には「コウノトリが舞う里づくり構想」を策定し、コウノトリを豊かな自然環境のシンボルとして環境づくりを進めてきた。そして、2011 年からコウノトリの飼育繁殖事業が開始され、2015 年 10 月から 2018 年までで計 9 羽が放鳥された。

野外での飼育繁殖については、福井県内では 2019 年には坂井市、2020 年には越前市で成功した。今後福井県内でもコウノトリの飛来・定着そして野外繁殖が増えていくことが予想される中で、自治体間でのコウノトリに関する情報共有も必要となってくる。また、飛来・定着や野外繁殖を契機に「コウノトリとの共生」を活かした地域づくりの取り組みに関する情報共有も必要となることが確実視される。

筆者はこれまで野生復帰事業に関する住民意識についてインタビューおよびアンケート調査を実施してきており、越前市においても 2015 年 8 月および 2016 年 1 月に市全域住民を対象としたアンケート調査を実施した。結果は本田・高橋 (2016a) (2016b) にまとめており、コウノトリは「自然環境のシンボル」として肯定的に捉えられている。

今後越前市に限らず広範囲にコウノトリが生息できる環境整備の取り組みや住民の理解と協力が得られるような意識啓発の取り組みが必要であると考え。そこで、本研究では、福井県内の各自治体での環境政策・環境教育の拡充や自治体間の連携・ネットワークの構築を考えていく上で環境政策・環境教育の取り組み状況を把握することとともに、今後の連携の展開について考察することを目的とする。なお、本研究は越前市農政課の全面的なサポートを受けて行われたものであることを予め述べておく。

2. 方法

福井県内には17の市町があり(図1)、それぞれの施策の状況を把握する上でアンケート調査を実施した。施策については、環境政策と教育政策に着目し、それぞれの担当部署を対象とした。

アンケート調査は、前述の通り越前市農政課の協力の下で、越前市を除いた16市町の各2部署の計32部署を対象とし、2019年9月2日に郵送により実施した。回収数は、環境部局は13、教育部局(以降教育委員会とする)は8であった(回収締切日を2019年9月20日に設定したが9月24日まで返信があり含めた)。アンケート票は8問であり、質問項目は表1に整理した。

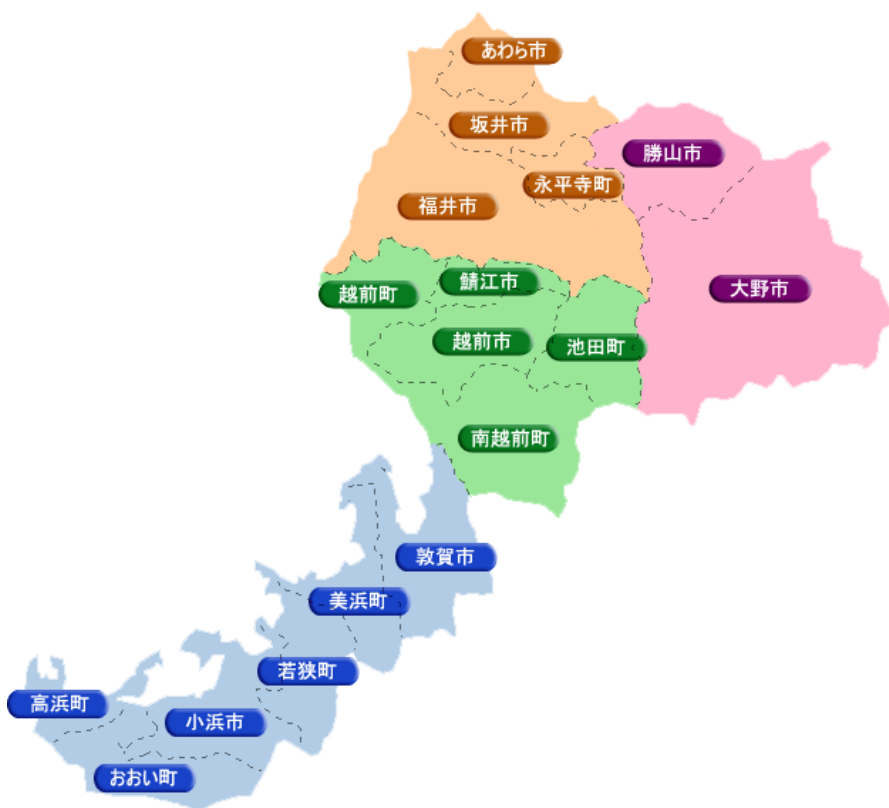


図1 福井県内の市町(福井県HPより)

表1 アンケート票の構成

質問番号	質問内容	
	環境部局	教育委員会
1	市町名・部課名・回答者氏名・役職	
2	扱っている業務内容	扱っている環境教育・環境学習のテーマ
3	コウノトリの野生復帰に関する認知	
4	市町内でのコウノトリの飛来状況・課としての対応	
5	コウノトリの飛来・定着・繁殖について知りたい情報	
6	自然再生・生物多様性保全に関する取り組み内容	環境教育・教育学習に関する取り組み内容
7	コウノトリを活かした環境政策・環境保全活動への取り組み	コウノトリを活かした環境教育・環境学習への取り組み内容
8	関係自治体間の連携・ネットワークへの関心 自由記述欄	

3. 結果

回答した環境部局 13、教育委員会 8 の市町について、調査時点（2019年9月時点）でコウノトリが飛来したことがある（繁殖・定着を含む）との回答も併せて表記したものが図2となる。

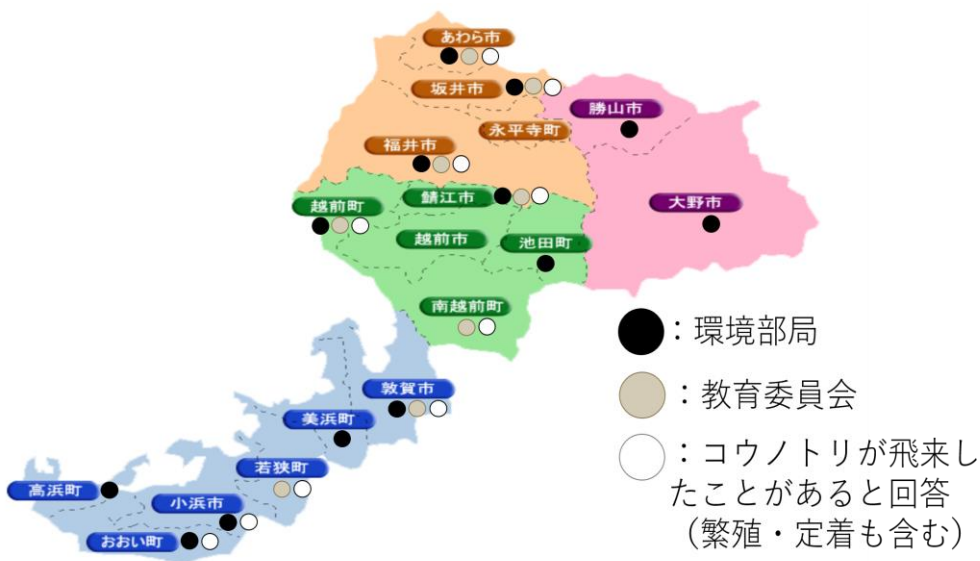


図2 アンケート調査に回答した市町

環境部局の業務内容については表2に整理した通りである。業務内容は「地球温暖化防止」、「外来種対策」、「水質汚染対策」、「大気汚染対策」が最も多く選ばれ、「廃棄物の処理・リサイクル」や「環境教育・環境学習」が続いた(表2)。「その他」では浄化槽行政、火葬場、し尿処理場、交通安全対策等が記述されていた。自然再生・生物多様性保全に関する取り組みの実施について質問した結果は図3の通りとなる。「外来種の駆除・拡大防止」について11市町が取り組んでおり、最も多く選ばれたが、コウノトリの生息整備に直接関係するような「有機農産物の認定制度や認証制度の普及・推進」、「ビオトープづくりの奨励・補助」、「冬水田んぼの奨励・補助」、「無農薬・減農薬栽培米の奨励」の取り組みが少なかった。ただ、「こどもを対象にした水田等での生き物調査の実施」は6市町が取り組んでいた。なお、「その他」の欄では、「トンボ保全のための休耕田を利用したビオトープづくり」(あわら市)、「三方五湖およびその周辺における地域の生物多様性の保全再生の取り組み」(美浜町)という記述が見られた。

表2 環境部局：業務内容【複数回答】

	市町数	割合(%)
地球温暖化防止	10	76.9
外来種対策	10	76.9
水質汚染対策	10	76.9
大気汚染対策	10	76.9
廃棄物の処理・リサイクル	9	69.2
環境教育・環境学習	9	69.2
生物多様性保全	8	61.5
再生可能エネルギー	8	61.5
ペットの適正飼養	8	61.5
希少種保護	7	53.8
自然再生	6	46.2
鳥獣被害対策	2	15.4
原子力発電に係る対策	2	15.4
河川整備	0	0.0
その他	4	30.8
合計	13	-

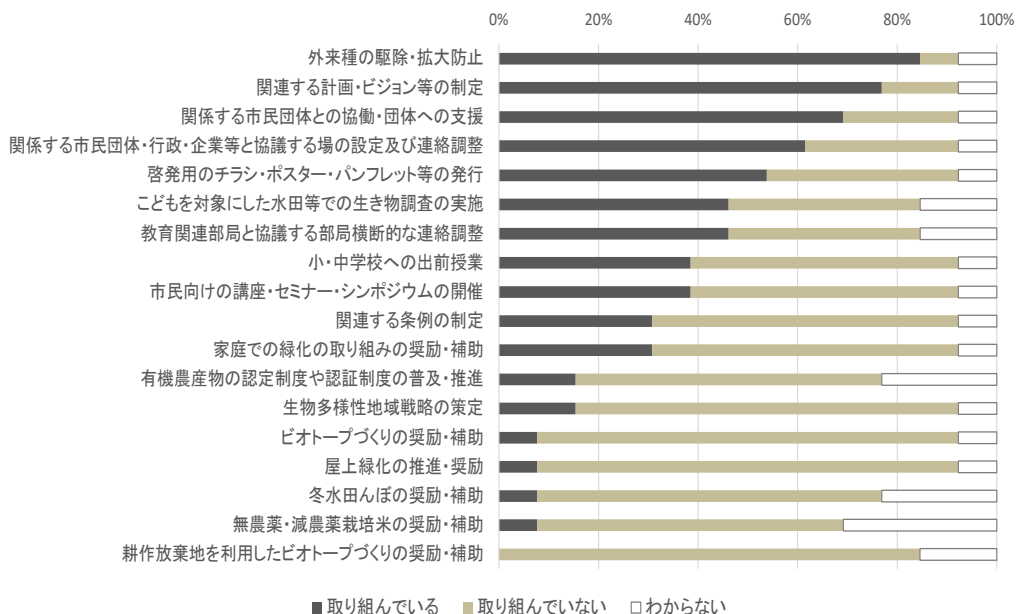


図3 環境部局：自然再生・生物多様性保全に関する取り組みの実施 (回答 13 市町)

教育委員会が扱っている環境教育・環境学習のテーマについては、「ごみ・リサイクル」が最も多く選ばれ、「エネルギー」、「地球温暖化」、「野外体験」が続いた（表3）。環境教育・環境学習に関する取り組みの実施についての質問結果は図4の通りとなる。「学校給食を通しての地域の農業者や漁業者との交流」は多く選ばれたが、他の項目については取り組みが少なかった。

表3 教育委員会：環境教育のテーマ【複数回答】

	市町数	割合(%)
ごみ・リサイクル	5	71.4
エネルギー	4	57.1
地球温暖化	3	42.9
野外体験	3	42.9
生物多様性	2	28.6
野生生物保護	2	28.6
森林	2	28.6
水資源	2	28.6
公害	2	28.6
ESD	2	28.6
グリーンコンシューマー	1	14.3
その他	0	0.0
合計	7	-

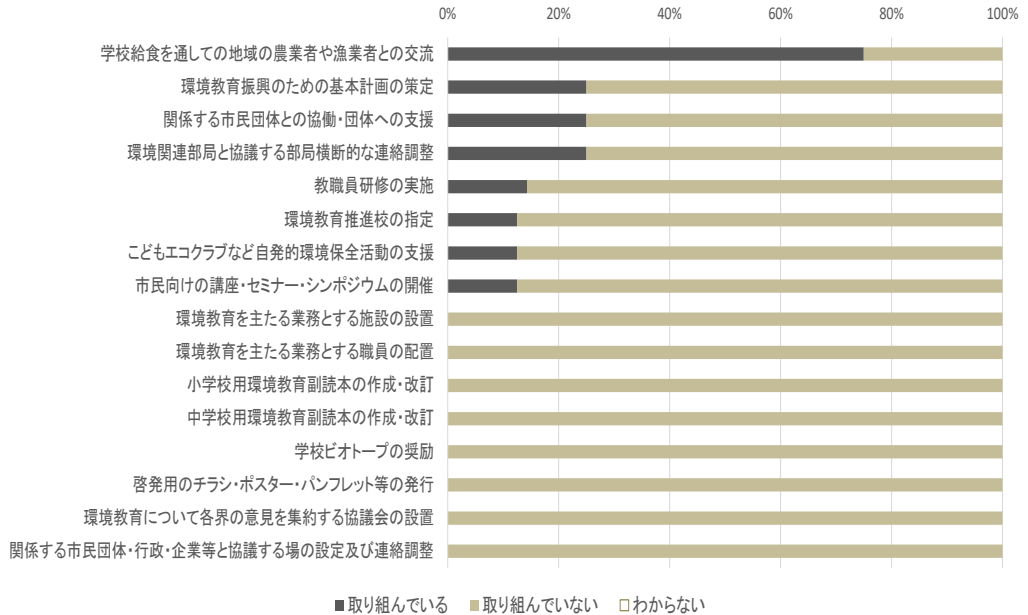


図4 教育委員会：環境教育・環境学習に関する取り組みの実施
(回答8市町(「教職員研修」のみ7市町の回答))

コウノトリに関する認識では、コウノトリが絶滅のおそれがあることや豊岡市での野生復帰実施は知っているが、2019年の越前市や坂井市内での野外繁殖についてはあまり知られていないことが明らかになった(表4)。

飛来への対応についても教育委員会が対応している項目が多いことがわかった(表5)。環境部局・教育委員会が共通して回答した項目は、「広報誌やHP等で取り上げた」、「現場に行き様子を確認」、「人工巣塔の設置を検討」、「コウノトリの足輪を確認」であり、鯖江市の環境部局からの回答では実際に人工巣塔を設置したとのことであった。

コウノトリについて知りたい情報(表6)では、環境部局が選択している項目が多く、「コウノトリの生息している場所の情報」が最も多く選ばれていた。環境部局・教育委員会が共通して回答した項目は、「コウノトリの生息する自然環境の特徴」、「コウノトリと他の鳥との違いや見分け方」、「コウノトリの天敵や生息を脅かす外来種」であり、「その他」では「報道のあり方」という記述も見られた。

表4 コウノトリに関する認識 (回答：環境部局 13 市町、教育委員会 8 市町)

	よく知っている		少し知っている		あまり知らない	
	環境	教育	環境	教育	環境	教育
コウノトリが絶滅のおそれがあること	8	5	4	3	1	0
兵庫県豊岡市でコウノトリの野生復帰事業が行われていること	6	3	4	3	3	2
福井県越前市や千葉県野田市でコウノトリの野生復帰(放鳥)が実施されていること	3	4	10	4	0	0
今年越前市内で野外でコウノトリのヒナがふ化したこと	6	5	3	2	4	1
今年坂井市内で野外でコウノトリのヒナがふ化したこと	5	4	4	3	4	1

表5 コウノトリの飛来等への対応

	環境	教育
広報誌やHP等で取り上げた	2	3
現場に行き、コウノトリの様子を確認	2	2
人工巣塔の設置を検討	2	1
コウノトリの足輪を確認	1	2
福井県に連絡・相談	0	2
兵庫県立コウノトリの郷公園に連絡・相談	0	1
電柱に巣がないか確認	0	1
コウノトリに近づかないように注意喚起	0	1
見物客が殺到しないように対策	0	1
回答市町数	7	6

表6 コウノトリについて知りたい情報【複数回答】

	環境	教育
コウノトリが生息している場所の情報	4	0
コウノトリの生息する自然環境の特徴	3	1
コウノトリと他の鳥との違いや見分け方	3	1
コウノトリの天敵や生息を脅かす外来種	3	1
水田やビオトープに生息する生きもの	3	0
福井県越前市による保護政策	2	0
市民団体による保護活動	2	0
コウノトリを活用した地域活性化の取り組み	2	0
コウノトリの生態・特徴	1	0
コウノトリの飼育数および野生下での生息数	1	0
兵庫県豊岡市による保護政策	1	0
今後の野生復帰計画の展望	1	0
その他	0	1
回答市町数	6	3

コウノトリを活かした環境政策・環境教育（表7）については、「関心があるがどのような取り組みをすればいいのかわからない」「関心はない」「わからない」が多数であり、すでに取り組んでいると回答したのは小浜市（環境部局）のみであった。なお、小浜市の回答には「コウノトリを活かしたまちづくりを行う先進地との交流事業」、「水田等でのビオトープでの生き物調査の実施」という記述が見られた。

自治体間の連携・ネットワークについては、「現時点で関心がない」「わからない」が多数となった（表8）。

表7 コウノトリを活かした環境政策・環境教育について

	環境	教育
関心があり、すでに取り組んでいる	1	0
関心があり、これから取り組む予定である	0	0
関心はあるが、どのような取り組みをすればいいのかわからない	4	4
関心はない	4	3
わからない	3	1
回答市町数	12	8

表8 自治体間の連携・ネットワークについて

	環境	教育
全国規模での関係自治体の連携・ネットワークに関心がある	0	0
福井県内での関係自治体の連携・ネットワークに関心がある	1	1
現時点で関心がない	7	6
わからない	4	1
回答市町数	12	8

4. 考察

以上の結果から、現状（2019年9月時点）では、コウノトリが飛来した自治体では、その対応として、人工巣塔を設置したり、コウノトリを活かした環境政策に取り組んだりする事例が一部見られるが、全体的にコウノトリを意識した環境政策・環境教育への関心はあまり高くないことがわかった。そもそも全体的に自然再生・生物多様性保全や環境教育の取り組みがあまり行われていないという結果が示されており、今後はコウノトリの飛来や定着・繁殖に限らず、まずは県内で自然再生・生物多様性保全や環境教育

の取り組み自体が活発になることが望まれる。なお、自然再生や生物多様性保全に関する取り組みは環境部局だけではなく、農業（農政）部局が取り組んでいることも予想されるため、今後の調査の際には環境部局だけではなく、農業（農政）部局にも調査する必要がある。

コウノトリの生息をめぐる自治体間の連携・ネットワークの構築については、現段階（2019年9月時点）では関心が薄く、自治体間の連携やネットワークを構築する必要性およびその重要性の認識が依然として低いことが伺える。そもそも、コウノトリについては、野生復帰事業の拠点である兵庫県立コウノトリの郷公園が中心的な役割という認識があるかもしれず、コウノトリが飛来・定着する自治体が中心的な役割を担うことの認識が薄いことも考えられる。

しかし、コウノトリの生息するエリアは今後広がる可能性があり、コウノトリの国内個体群の安定的な生息のためには関係する自治体同士の連携が今後一層必要になってくる。福井県内においては、放鳥事業を行い、野外繁殖にも成功した越前市を中心に、コウノトリを活かしたまちづくりを行う自治体が率先して、コウノトリの飛来や定着が確認された自治体への情報提供・情報共有を行うことが、今後の自治体間のネットワーク構築の上で望ましい。

付記

本研究で取り上げたアンケート調査は、越前市農政課との連携により実施しました。越前市農政課の皆様にご感謝申し上げますとともに、アンケートに回答いただいた各市町の担当者様にも御礼申し上げます。なお、本研究は、2019年11月23日・24日に開催された「野生生物と社会」学会第25回大会（於：金沢星稜大学）でのポスター発表（「福井県内での「コウノトリとの共生」に向けた自治体での取り組み状況の把握—県内16市町を対象にしたアンケート調査から」）をもとに作成したものととなります。

文献

本田裕子・高橋正弘 (2016a) 「コウノトリの野生復帰事業をめぐる放鳥前段階の福井県越前市住民の意識調査について」『大正大学人間環境論集』3号：29－52頁.

本田裕子・高橋正弘 (2016b) 「住民意識から探る野生復帰の意義：放鳥を実施した新たな自治体の現在」『ワイルドライフ・フォーラム』21 (1)：34－37頁.

資料

福井県「福井県内市町リンク集」(最終閲覧日：2021年3月9日)

https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/shimachi_list.html